

白波スタジアム リニューアルオープン 2020年国体開催まで約540日

4月1日に新元号「令和」が発表され、5月から交付されます。新たなスタートを感じます。

2020年開催の「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」まで約540日、1年6カ月になってまいりました。令和元年は国体成功に向けて、選手の強化や競技役員、審判技術の向上を図るうえで正念場となる1年です。皆さまの今まで以上の御支援御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年度競技会 計画どおりの実施に感謝！

昨年度は、白波スタジアムの改修工事のために、前半は薩摩川内市で5競技会を開催、川薩地区をはじめ周辺地域の皆さまの御協力を賜り、滞りなく行うことができました。また、後半は鴨池補助競技場での実施となり、不自由・不便な競技会運営を強いられましたが、すべて計画どおりに開催することができました。皆さまの温かい御理解御協力に對しまして、改めてお礼と感謝を申し上げます。

新たな設備・用器具完備 機器への習熟を

白波スタジアムのリニューアルオープンに伴い、競技場内の設備・用器具も新たな物になりました。これまで機器等の老朽化により不便な、我慢の競技運営をしてきましたが、おかげさまでこの心配からは解放されそうです。

新たな設備の整備により、パソコンやタブレット、インカムなどが多く導入され、デジタル機器を活用した大会運営となります。また、各コーナーにはズームや首振り可能カメラが設置され、大型スクリーンに投影できるようになっています。

1日も早く、これらの機器の取扱をマスターし、使いこなせるように精励していただきたいと思っております。と同時に、競技運営の工夫、進化にも努めていく必要があります。相互の一層の研修や研鑽、取組をお願いいたします。

機器の取扱は丁寧に 後始末の確認を!!

今年も皆さまの御支援御協力をいただき、多くの競技会を開催します。機器の丁寧な設置や取扱、後始末の際の確認の徹底を切にお願い申し上げます。

大崎町 旧県立有明高校跡地に合宿施設整備

「ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅」
県が県立有明高校の跡地の有効活用のために、進めてきた施設が3月に完成し、23日に供用開始イベントが盛大に行われました。

施設は、「ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅」と命名され、陸上競技に特化した合宿やキャンプに使われる施設で、4月1日から供用されています。

日本陸連公認の第3種競技場として認可され、全天候舗装400mトラックの8レーンをはじめ、傾斜走路や砂場走路などがあります。また、敷地内には4レーン相当の400mの土舗装のある多目的グラウンドや投てき練習場も完備しています。

さらに、体育館やトレーニングルーム、アイシングバス トレーナールームなどもあり、障害者の使用にも配慮した設計になっています。

国内最長の走路 全国トップクラスの室内競技場

特に、室内競技場は全天候舗装150mが5レーンあり、走幅跳や棒高跳などが可能な施設で、全国のトップクラスの充実した内容となっています。

また、近くには松林のクロスカントリーコースもあり、天候を心配することなく、バリエーションに富んだ練習やトレーニングを行うことが可能です。

さらに、独立行政法人鹿児島体育大学も園内にあり、スポーツパフォーマンス研究センターと連携、活用した科学的なトレーニングを工夫することもできます。

近くトリニダードトバゴの陸上競技の選手たちが訪れ、練習することになっているそうです。

県内だけでなく、全国や海外からも多くのアスリートがこの「ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅」を利用し、実りある合宿やキャンプを行い、陸上競技・スポーツ合宿の聖地・拠点となることを願っています。

全国都道府県対抗駅伝競走大会

男子健闘 6位入賞 女子14位

皇后盃第37回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会は、1月13日、京都市の西京極陸上競技場を発着とする9区間、42.195kmのコースで開催されました。

平成最後となる本大会は好天に恵まれて、12時30分に全国の47チームが一斉にスタートしました。

急成長を遂げた京セラの山ノ内みなみを擁し、入賞を期して臨んだ本県チームでしたが、大会直前に登録選手の体調不良により、メンバーを変更しての出場となりました。

1区は年末の全国高校駅伝競走大会で優勝メンバーの神村学園高の平田歩弓選手でした。社会人との厳しい戦いとなり、21位スタート。2区のふるさと選手で出場のデンソーの倉岡奈々の挽回に期待を託しました。しかし、今ひとつ精彩を欠き、順位を上げられず、3区の城西中の森山七海に襷を託しました。森山は初出場とは思えない堂々とした走りであり、17位に順位を上げ、6区の樟南高の古川結美が区間3位の快走で12位と上昇軌道を予感させました。結局2時間20分38秒のタイムでフィニッシュ。中学・高校生の踏ん張り、健闘で前回の17位を上回る14位という結果になりました。

選手の健闘とスタッフの労をねぎらいます。優勝は愛知県チームの2時間15分43秒で、3年ぶり2回目。本県チームの各選手の区間記録や順位等は次のとおりです。

1区(6km)	平田 歩弓 (神村学園高)	(21)	20'24"
2区(4km)	倉岡 奈々 (デンソー)	(20)	13'16"
3区(3km)	森山 七海 (城山中)	(6)	9'26"
4区(4km)	原田 まつり (樟南高)	(13)	13'28"
5区(4.1075km)	尾方 星華 (樟南高)	(23)	14'13"
6区(4.0875km)	古川 結美 (樟南高)	(3)	12'53"
7区(4km)	黒川 円佳 (神村学園高)	(11)	12'58"
8区(3km)	野村 優花 (国分南中)	(22)	10'45"
9区(10km)	池満 綾乃 (鹿児島銀行)	(19)	33'12"

男子 序盤から快走 4年ぶり入賞の健闘

天皇盃第24回都道府県対抗男子駅伝競走大会は、1月20日に広島市で行われ、7区間48.0kmのコースで争われ、本県チームは前回の25位から一気に順位を上げて6位でフィニッシュしました。平成27年以来の4年ぶりとなる入賞を果たしました。記録は2時間21分22秒。

1区は年末の全国高校駅伝競走大会出場を逃した鹿児島実業高校の加藤大誠が、その悔しさをぶつける快走で7位発進。2区の田崎中の須山向陽は区間3位、3区京セラの中村高洋も区間9位、4区鹿児島城西高の漆畑瑠人は区間6位と序盤から中盤にかけて流れに乗り、一時は先頭に立つ場面もありました。後半徐々に順位を落としましたが、最終区でふるさと選手の旭化成の市田宏が5人抜きを演じて堂々の入賞を果たしました。

テレビ観戦で観戦している陸上競技ファンや県民を大いに満足させてくれ、やればできるという次につながる希望を抱かせてくれる戦いでした。

選手の皆さんの頑張りやスタッフの皆さんの労を心からねぎらい、さらなる成長・飛躍を期待しています。

優勝は福島県チーム。2時間19分43秒の記録で初優勝でした。

各選手の区間記録や順位等は下記のとおりです。

1区(7km)	加藤 大誠 (鹿児島実業高)	(7)	20'39"
2区(3km)	須山 向陽 (田崎中)	(3)	8'40"
3区(8.5km)	中村 高洋 (京セラ)	(9)	25'8"
4区(5km)	漆畑 瑠人 (鹿児島城西高)	(6)	14'35"
5区(8.5km)	山内 健登 (樟南高)	(31)	25'48"
6区(3km)	石岡 大侑 (出水中)	(10)	8'47"
7区(13km)	市田 宏 (旭化成)	(12)	38'18"

2020年鹿児島国体開催年 都道府県対抗で弾みを

5月から新元号「令和」が始まります。新年早々に開かれる都道府県対抗男女駅伝競走大会は、新元号最初の大会となり、「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」開催の年明けの大会となります。

女子第38回、男子第25回大会は、国体開催へ弾みをつける取組を進めていきたいと思いを強くしています。

第32回県対抗地区対抗女子駅伝競走大会

始良 2年連続12回目の優勝

1月27日に霧島市隼人・国分路をコースとして、第32回県地区対抗女子駅伝競走大会が、6区間21.097kmで行われました。

前回18年ぶりに優勝を飾った、選手層の厚い始良チームが1区から終始トップをキープして、2連覇を達成、12回目の勝利を飾りました。記録は1時間9分19秒の大会新記録でした。

2位には1分33秒遅れで肝属チーム、3位は鹿児島チームが入りました。

Bクラス優勝は総合5位の曾於チーム。Cクラス優勝は前回の9位から総合4位を勝ち取り、大躍進の川薩チームでした。

躍進賞は前回の記録を3分21秒短縮した川薩チームに輝きました。

各チームの順位や記録は次のとおりです。

優勝	始良	1' 9' 19"	(大会新記録、躍進3位)
2位	肝属	1' 10' 52"	(躍進2位)
3位	鹿児島	1' 11' 24"	
4位	川薩	1' 12' 5"	(Cクラス優勝、躍進1位)
5位	曾於	1' 13' 4"	(Bクラス優勝)
6位	日置	1' 13' 47"	
7位	出水	1' 15' 33"	
8位	大島	1' 15' 47"	
9位	熊毛	1' 17' 28"	
10位	伊佐	1' 18' 6"	
11位	川辺	1' 19' 2"	
12位	揖宿	1' 20' 13"	

第66回県下一周市郡対抗駅伝競走大会

始良 2年連続24回目の栄冠!

出水 大健闘 2日目42年ぶりの日間優勝

鹿児島に春の訪れを告げる恒例の第66回県下一周市郡対抗駅伝競走大会は、2月16日から20日まで5日間にわたって、53区間584kmで戦いが繰り広げられました。

前回大会最終日の事故やコースの変更、中継所の移動等により、総距離が少し短縮されて行われました。

総合優勝は、奇数日を制した始良チーム。2年連続の24回目の勝利を飾りました。始良地区は県地区対抗女子駅伝競走大会の優勝と合わせ、2年連続の男女アベック優勝となりました。

2位に入ったのは、鹿児島チーム。3位は前回の5位から大躍進の川薩チームで、Bクラス優勝及び躍進賞も獲得しました。

今大会の台風の目となったのは、出水チームでした。郷土入りとなる2日目に42年ぶりの日間優勝を遂げ、フィニッシュ地点の出水市役所前で盛大な歓迎を受けました。

Cクラス優勝は指宿チームで、9位から12位までは前回と同じ順位で終わりました。

また、今大会では大島チームが3個の区間賞を獲得し、13個の区間新記録が生まれ、各選手の頑張りや活躍がうかがえる大会でした。

今大会は競技運営上のトラブルはなく終えることができました。各中継所で任務にあたっていただきました競技役員の方々の皆さまをはじめ、選手の誘導や交通整理等で御尽力いただきました警察や各市町のスポーツ推進委員、交通安全協会、地域の女性団体の関係の方々々に心から感謝とねぎらいの言葉を申し上げます。

県下一周駅伝競走大会は、大会日程や総距離、区間等において全国一の駅伝大会と自負しています。令和元号最初となる第67回大会がさらに盛大な大会になることを念じています。各チームの順位と記録は次のとおりです。

優勝	始良	31' 32' 29"	
2位	鹿児島	31' 44' 29"	
3位	川薩	31' 47' 20"	(Bクラス優勝、躍進1位)
4位	日置	31' 50' 1"	(躍進2位)
5位	肝属	32' 8' 34"	
6位	出水	32' 18' 5"	
7位	川辺	32' 18' 17"	
8位	曾於	32' 20' 10"	
9位	指宿	32' 42' 31"	(Cクラス優勝、躍進3位)
10位	大島	32' 43' 23"	
11位	熊毛	33' 40' 47"	
12位	伊佐	33' 44' 41"	

男子10000m 中村高洋(京セラ)大会新V

第56回南日本長距離走大会 1月6日開催

新春恒例の第56回南日本長距離走大会は、1月6日に県立鴨池補助競技場で行われ、一般男子10000mは京セラの中村高洋が大会新記録で優勝しました。

【男子】

中学1年2000m	立迫 大徳(天保山中)	6'18"24
中学2・3年3000m	神之田 大翼(阿久根中)	9'11"13
高校5000m	内山 俊一(出水中央高)	15'21"13
高校10000m	安川 元気(鹿児島城西高)	31'26"58
一般10000m	中村 高洋(京セラ)	29'31"39(大会新)

【女子】

中学1年2000m	本坊 あこ(東谷山中)	6'55"76
中学2・3年3000m	中川 千裕(東谷山中)	10'25"77
共通5000m	堀口 ゆず(鹿児島女高)	17'25"65

県高校新人駅伝競走大会

男子 樟南高 女子 神村高 2年ぶりの優勝

第25回県高校新人駅伝競走大会は、2月2日に南さつま市の吹上浜海浜公園とその周辺を周回するコースで行われました。

男子は6区間32.3kmにオープン参加を含め31チーム、女子は4区間13.8kmに23チームが出場しました。

男子は1区から先行した樟南高校がそのままトップを突っ走り優勝。女子は年末の全国高校駅伝大会を制した神村学園高校が4区間区間賞の完全制覇、大会新記録で勝利を飾りました。

男女3位までの結果は次のとおりです。

【男子】

優勝	樟南高	1' 37' 36"
2位	出水中央高	1' 38' 40"
3位	鹿児島実業高	1' 48' 44"

【女子】

優勝	神村学園高	45' 12" (大会新)
2位	樟南高	45' 42"
3位	出水中央高	47' 38"

県中学校新人駅伝競走大会

男子 帖佐中 女子 東谷山中 勝利!

第30回県中学校新人駅伝競走大会は、2月2日に鹿児島市の桜島溶岩グラウンド周回コースにおいて、男子6区間19km、女子5区間12kmで争われました。

男子はオープン参加の10チームを含め49チームが出場し、帖佐中学校が優勝しました。女子はオープン参加9チームを含め51チームが出場し、東谷山中中学校が栄冠を手に入れました。

男女3位までの結果は次のとおりです。

【男子】

優勝	帖佐中	1' 3' 21"
2位	舞鶴中	1' 3' 40"
3位	出水中	1' 4' 16"

【女子】

優勝	東谷山中	43' 14"
2位	国分南中	43' 42"
3位	帖佐中	44' 34"

鹿児島マラソン2019

男子 飛松佑輔 大会新3連覇 女子 松枝未代 初V

4回目となる鹿児島マラソン2019は、3月3日に鹿児島市のドルフィンポート前をスタートして、始良市の重富で折り返し、鹿児島市役所前でフィニッシュする公認マラソンコースで行われました。

好天に恵まれ、男子マラソンにおいて、日置市役所の飛松佑輔が大会新記録で栄冠に輝きました。女子は、鹿児島銀行の松枝未代が初出場で初優勝を遂げました。

完走率は過去最高の94.6%、民間の放送局の平均視聴率は28.9%を記録したそうです。

男女マラソンの3位までの入賞者は次のとおりです。

【男子】

優勝	飛松佑輔(鹿児島;日置市役所)	2° 14' 51"
		(大会新)
2位	鈴東千弘(鹿児島;国分自衛隊)	2° 25' 03"
3位	永田宏一郎(鹿児島;鹿児島陸協)	2° 26' 15"

【女子】

優勝	松枝未代(鹿児島;鹿児島銀行)	2° 42' 41"
2位	古瀬麻美(鹿児島;京セラ)	2° 44' 07"
3位	花田まり(福岡;大濠ランナース)	2° 56' 11"